

アートプロジェクト

明日の耳、チバの声

家族連れやカップルで賑わう千葉公園の一角に、大きなホーン状の收音部(耳)を備えた直径4m高さ4.5mほどの内部空間を持った小屋を設置する。

小屋は雪国にある「かまくら」のような形状で、千葉のあちこちで解体された建築廃材を組み合わせて制作する。芝生に伸びたり空に向かったりする数個の耳からは、子供達のはしゃぐ声や風の音がホーン(耳)から小屋の内部に入り込み、廃材の隙間から漏れ日が差し込む空間の中で、千葉公園に内在する普段気付かないこの場所の特性が、抽象性を帯びて現れる。

この場所にはかつて日本軍鉄道連隊の演習場があり若い兵士の掛け声が響いていたこともあったであろう。また現在は市民の公園として人々の憩う声が聞こえてくる。そして未来にはこの場所でどんな音が響くのか。

私たちは自然環境と、人々の暮らしが生み出した人口的な環境の下で生活している。本作の内部で聞くこの場所が発する音は、視覚中心の認識とは少し違う感覚を私たちに与えてくれる。

風や雨の音、自動車やモノレールの音、人々の発する声など、自然と人間の作り出す音に耳を傾け、日常生活で忘れがちな、自然や、人の営みや、過去や未来に思いを馳せる時間を、本作品によって提供する。

市民参加のかたち：材料提供・制作参加・展示鑑賞



ダイダラウルトラボウ／瀬戸内国際芸術祭2022

伊東 敏光

1959年千葉生まれ。1987東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。広島市立大学芸術学部名誉教授。近年は「風景と彫刻」をテーマに、それぞれの場の歴史や風土のリサーチからもたらされるインスピレーションを造形化する試みを続けている。近年の主な展覧会として、2015「LA ART SHOW 2015」ロサンゼルス コンベンションセンター／「アートフェア東京2016」東京国際フォーラム／2016「彫刻-気概と意外」東京芸術大学大学美術館陳列館／2017 個展KEUMSAN GALLERY（韓国 ソウル市）／2018 個展 FEI ART MUSEUM YOKOHAMA（神奈川県）／2018 平昌文化オリンピックイベント「FIRE ART FESTA 2018 -献火歌-」江陵鏡浦海岸（韓国 江陵市）／「瀬戸内国際芸術祭2016,2019,2022,2025」（香川県小豆島町）等。